

# オリーブミルク

玉の愛兒も  
樂々肥る  
メリーミルク

製造元 東京東葉子社  
支店 東京東葉子社  
支店 東京東葉子社

## 各種流行新柄入荷

流行新柄の秋物及び冬物防寒品  
澤山揃ひました

平町一丁目(電話二一七番)  
仙台屋呉服店

### 家賃

櫻宅向 拾圓  
白銀町 二十五圓  
商店向 拾五圓  
住宅向 拾五圓  
仲問町 拾圓  
柳町 拾圓  
住宅向 八圓

平町白銀町  
加藤營業所  
電話三三三番  
五丁目 地所付賣家  
舊城跡、本丸、二ノ丸

美味で評判の  
遠藤パン  
(平驛前)

### 急告貸家

本町通り目抜の場所  
にて角家敷貸し度し  
姓名在社

## 自動車運轉手及助手募集

一、運轉手 拾名  
一、助手 拾名

身体強健志操堅實ナル者採用シタシ  
勤務ハ日中九時間、毎日曜休暇(給料其他面談の上)  
希望者ハ本月末迄ニ履歴書(免狀ヲ有スル者ハ免狀ヲ  
モ)持參庶務係マデ出頭相成度  
大正十三年十月

内郷村大字宮  
磐城炭礦株式會社  
鑛業部

## 建築材料

一、磐城セメント樽入 袋入  
一、板ガラス各 種  
一、壁用材料各 種  
一、ペンキ塗各 種

セメント、板ガラス安價になり  
ました、  
御照會を乞ふ

磐城セメント株式會社代理店  
西村屋藥舖  
平町二丁目 電話三三番

古山印醬油  
美味 經濟

元造 鹽屋本  
電話二七番

# 常盤新聞

發行編輯人 川崎文治  
福島縣石城郡平町長崎町廿五番地  
發行所 常盤毎日新聞社

定部 五圓  
廣告 五圓  
印刷 五圓  
電話 三三三番

刊夕日八廿月十

### 哀調 (二)

中山雅司

坊やは善兒だねんねこな  
坊やお守は何處へ行た  
お山を越えてお里へ行た  
お里の土産に何もちつた  
デン／＼太鼓に響のふえ  
暮靄野面をこめて丘の上  
は、尾花の三つ四つが夕風  
に誰れを待つやら  
子守唄は慈愛深い母の胸  
奥を絞つて、何時になく歸  
りのおそい夫を案じつゝ、  
門に待つ間の聲である  
勿論この場合、母が子守  
唄を歌ふのは、音楽の歌詞  
を歌ふやうなつもりで遣る

のでは無い、否、歌を唄つ  
てやろうといふ意思さへも  
無く、唯泣く兒の爲めに母  
の慈悲心が、自然と聲に出  
て「母さんがお負ふして居  
るから何も怖い事は無いよ  
安心して寝ねをなさい」と  
いふ意味が、別の詞で歌は  
れたに過ぎないのである、  
けれども子を思ふ至情と  
子を育つる苦勞と、より合  
さつた誠の力は頑是ない赤  
兒の聲を止め、涙を抑へる  
のみならず、是れを聞く遊  
子旅客の袂の奥に、一時  
雨サツトあびたる思ひあら  
じむるものである

「お納戸羅紗の長合羽」  
と演じながら長髪ヒ

ヨイと打ち振れば、満堂の  
上下、紙一枚の隙もない聴  
衆の雑踏混亂を、宛然打つ  
た水跡のやうにした、桃中  
軒雲右衛門、斷じて凡で無  
かつた、彼れの演ずる聲を  
聴け、文句以外、曲節以外  
聲量以外、何とやら一種の  
哀調があつて、豪壯の中、  
古淡の中、腸を絞るものが  
ある、また巧みなる表情に  
依つて表はす千萬無量は人  
をして演ずる人物を眼前に  
彷彿たらしめた、彼れの着  
眼點が時代に適應せしとは  
言へ、其湧出せる哀調を帯  
びた精神が藝の上に顯はれ  
た事も、没すべからざる成  
効の原因でなくてはならぬ

### 株式會社 丸登株式

平町田町 電話三三三番  
川添房二郎

磐城銀行	五〇〇	五三〇
平銀行	五〇〇	六八〇
磐城銀行	一一五	一〇五
磐城銀行	五〇〇	四二〇
磐城銀行	一一五	一一五
田村實業	一一五	一一五
四倉銀行	一一五	一一五
農工銀行	一一五	一一五
同 新	一一五	一一五
百七銀行	一一五	一一五
同 新	一一五	一一五
七七銀行	一一五	一一五
郡山電氣	一一五	一一五
同 新	一一五	一一五
只見川電	一一五	一一五
植田水電	一一五	一一五
好間水電	一一五	一一五
磐城製菓	一一五	一一五
磐城製菓	一一五	一一五
平信託	一一五	一一五
磐城製菓	一一五	一一五
植田物産	一一五	一一五
平製水	一一五	一一五
好間軌道	一一五	一一五
入山新	一一五	一一五
小田炭礦	一一五	一一五
磐城炭礦	一一五	一一五
同 新	一一五	一一五
磐城セメント	一一五	一一五
同 新	一一五	一一五
平運送	一一五	一一五

常磐片々
平町の夜は今迄あまりに暗過ぎた、故にアンマが非常に困る
光りがないとアンマに劣る眼明き共が時々本物のアンマに突き當るからだどナ

石炭實送高
去月中の統計
常磐地方各炭礦の去月中に於ける市場への實送高は廿一萬三千八百七十七噸で調節高は廿一萬二千六百五十六噸である

登記所件數
登録税三萬圓
平町裁判所内登記所の去月中に於ける登記件數並びに

讀者諸君の思ひ付きを募る
本紙は讀者諸君の爲めに備へた公器であるの故を以つて常に諸君からの御注意を

募集
文藝其他投稿
錄税は實に三萬圓一圓五十錢に達して居ると

古河炭礦堅坑内に
俄然熱湯が湧出す
會社側誠意を盡し
失業坑夫は他礦へ配屬
止むなきに陥つた幸ひ死傷者なく千七百餘名の労働者は入山、磐城、大日本、福島等の各炭礦に配屬收容し

坑内新装置
通風機が完成
石城郡湯本町入山炭礦は第五坑の出炭増加と新三坑並びに川平方面の大発展に併ひ坑夫募集中の處好間村古河炭礦が休山となつたので



庭家
欄十
十

棄て鉢の女賊
各所を荒らす
石城郡錦村生れ目下住所不定驚エイ(〇)は歳若い頃一度結婚した事あるが其後離

不平受付
文藝欄がない
貴紙の文藝欄は投書を選りすぐる爲めか時々優れた傑作が掲載されるので私共は非常な尊敬の眼を以つて是れを讀むのを樂しみにして居つたので

懸賞募集
かふ違が字ふ云こん何
平町三丁目中野吳服店が冬衣新着の廣告ビラを本社專屬印刷工場磐陽社にて印刷に附し明日吉田新聞販賣の各新聞紙に折込むと同時に全町に亘り五千枚を配布する筈です

意外に暗かつた
平町の夜が非常にも明るくなつて来た從來軒燈のみで僅に街路を照明し外來客をして夜の平町が意外に暗いのを慨かして居たが過般三丁目

日本刀を抜く
泥酔して乱暴
石城郡内郷村宇高坂磐城炭礦鍛冶工古内清記(三)は今朝二時半頃妾である平町南町飲食店佐藤タツ(三)方に

讀者諸君の思ひ付きを募る
本紙は讀者諸君の爲めに備へた公器であるの故を以つて常に諸君からの御注意を